

練馬区の将来像を考える区民懇談会
環境まちづくり分野分科会
第7回 議事概要

日時：平成20年2月5日（火）午後6時30分～8時30分
場所：練馬区役所20階交流会場

出席者【敬称略、50音順】

浅野祐介、市川哲也、上野定雄、加藤眞一、要久美子、小林俊彦、関口陽一、田中麻起子、沼田美穂、平田英二、深野一民、福澤節三、蒔田實、松島修三、柳洋子、渡邊義雄

1. 前回の振り返りと本日の進め方について

- ーコーディネーターの原田氏より、本日のプログラムについての説明を行った。
- ーまた、各グループの前回の議論の進捗と成果について簡単に確認を行った。

■委員

- ・細かい内容に関する議論の時間は短めにして、全体のとりまとめの時間を長めにとるようにはどうか。

■原田コーディネーター

- ・中間報告書の再確認は、事前送付の段階で考えて頂いたものがあれば出していただき、そこに注力しすぎることがないようにして頂きたい。
- ・事業アイデアの整理については、前回議論したものを貼っているが、それを肉付けしても新しいテーマを追加しても良い。ここは、最終報告書に反映させるためにもある程度具体的な取組み内容を記述していただいた方がよい。また、「だれ」が「何をする」のかという視点で、区と区民が協働できる取組みなども盛り込んでいただきたい。
- ・予定では、19:55までとしているが、全体討議の時間を確保するためにも19:45までにしたいと思う。

2. ワークショップ

(1) 環境まちづくり分野の「具体的事業のアイデア」の検討

- ー前回に引き続き、4つの将来像に別れて、具体的事業のアイデアの検討を行った。あわせて、中間報告書の課題および将来像についての見直しを行った。

【討議結果要旨】詳細は別紙参照

（「練馬区の将来像を考える区民懇談会～環境まちづくり分野 第7回討議結果」「第7回討議結果 報告書修正意見」参照）

■グループ参加者（敬称略、50音順）

グループA：加藤眞一、田中麻起子、平田英二、福澤節三、柳洋子、渡邊義雄

グループB：深野一民、蒔田實

グループC：市川哲也、上野定雄、要久美子、小林俊彦、沼田美穂

グループD：浅野祐介、関口陽一、松島修三

（2）グループ発表

－（1）の成果を各グループで発表

■Bグループ

- ・中間報告の修正についてだが、課題については、マイナスイメージが先行しているため、子どもたちが自由に遊べるという3点目を大事にするという観点から、一番最初の項目に移動させ、以下、順番を入れ替えるという整理を行った。
- ・具体的な取組みのアイデアについては、前回上手に整理できていなかったため、3つにまとめた。1点目は区内の河川の親水化事業である。2点目、練馬区内には旧水路が発達していることから、これらを活用するための旧水路のルネッサンス事業として整理した。3点目は湧水の保全とした。
- ・また、こうしたことを総合的に推進するためには、全体を網羅し検討するようなマスタープランをつくってはどうかということを提案した。それにより、現状が把握可能となり、条例の整備や路面の雨水の地下浸透の推進などが実現できるのではないかと考えた。

■Aグループ

- ・中間報告の内容に関する修正としては、将来像の中で「"みどり資産"を次世代に引き継いでいける」といった言葉や、「・緑地の持っている環境保全や防災などの役割を大切にします。」といった表現を追加することとしている。
- ・具体的な取組みのアイデアについては、全体として「みどりプログラム」という総称をつけた。
- ・その一つは、「みどりの約束」として、区や区民、農業従事者、神社・寺院などのステークホルダー（利害関係者）が約束をすることを提案している。たとえば区は私有地の巨木や樹林を残していくための施策を展開したり、「みどり税」といって、税金の代わりに木を植えることを認める税制などを考えても良いのではないか。
- ・その他、「いい土プロジェクト」として、みどりの循環をつくる仕組みを設けるということや、「みどりを楽しむプロジェクト」として、「みどりの日」をつくり、植樹祭などのイベントを地域持ち回りで展開していくといった内容を提案している。
- ・もう一つの視点として、「練馬地場野菜プロジェクト」を提案し、農地のみどりが保たれる仕組みの構築を追記した。さらに、地場野菜を楽しんで食べるといったことは、食育の面からも非常に効果的ではないかと考えている。

■Cグループ

- ・前回までは、リサイクルという視点でまとめていた。今回はそれを掘り下げて、資源品

目を増やすということあげている。日本で一番多い分類は 34 分類だそうで、町田市などもそれに習って進めていることから、やってやれないことはないだろう。

- また、生ごみは生活の中で出てくるので、土に返すようなステーションを設けてはどうか。その際、例えば J A と協働して、練馬でできた野菜を食べ、その廃棄物を J A が集めて堆肥化するという、地産地消の推進のための仕組みがあっても良いのではないか。ただし、いずれは各家で堆肥化できるようになることが望ましい。
- リサイクルだけではなく、例えばリサイクルしやすいものを買ったり、長持ちするものを購入するといった 3 R の教育も必要である。この教育をより楽しめる内容とするためにも、「ねりまクン」のようなキャラクターを設けて、アニメなどを活用しながら実施してはどうか。
- 3 R を進めるためには、環境によいと思われる行動をとった人が得をするような仕組みが必要である。そのため、デポジットについても地域の商店街などで取り組んではどうか。また、各地で地域通貨に関する取組みが行われているが練馬の商店街をモデルとして、地域通貨を貯めると花の苗に交換できるような仕組みがあれば、環境にも良く緑が増えていくのではないか。環境と経済が両立出来るようなエコシティ構想という発想が必要だろう。
- エネルギーを大切にすることは温暖化の視点から重要であるため、いままでの未利用エネルギー、光・風・汚泥などを公共施設で取り入れたり、省エネを考えて環境によいものを選択するようなまちになればよいと思う。

■ D グループ

- 生活者優先の道路ということでは、生活道路の電灯を充実させて安全性を高めたり、バリアフリー化を進めると行った取り組みを追加している。
- 災害対策については、避難経路を確保したり、避難広場を整備するといったことを検討している。
- 総合的な道路空間については、電線の地中化や鉄道の高架化を進めることなどを記述している。また、各モードを有機的につなげるということも記入している。また今までの公共交通の充実に関しては、コミュニティバスの見直しなどを追加している。
- 自転車については、駐輪場を整備していくといった内容に自転車専用道路の整備を追加している。
- また、移動交通手段の P R ということで、移動可能な交通手段の周知が必要ではないかということ整理した。

(3) 全体質疑

■ 委員

- 公園に捨ててあるようなごみを拾ったりする。たばこの吸い殻が多く、公園にあるごみは大変な量である。
- しかし、こうして拾い集めたごみを捨てる場所がない。結局持って帰ることになるが、そこまでしてごみを拾い集めようとする人は少ないだろう。そのため、ごみ箱を設置することが、重要だと思うがどうだろうか。

■委員

- ・今回Cグループではそうしたごみ捨ての問題については議論しなかった。
- ・ごみ箱をまちの中に増やした方が良いというご意見と理解したが、一方で、ごみ箱を減らした方が良いという意見もあるように思う。
- ・たばこのポイ捨てであれば、携帯灰皿を持つといった、マナーの向上から始めた方がよいのではないか。

■委員

- ・しかし、公園でカップラーメンを食べたりパンを食べたあとの容器を公園内の池に捨ててしまうような人も多い。

■委員

- ・自分の出したごみを持ち帰らせるために、ごみ箱をおかないという傾向が強いのではないだろうか。

■委員

- ・石神井公園では、マナーを徹底させるグループが活動している。公園だけでなく、まちの至る所でごみのポイ捨ては行われており、ルールを守ることを徹底させるということが重要だろう。
- ・最初は罰金などの規則を設けて取り締りを行うということも必要ではないか。

■原田コーディネーター

- ・いま取り組みの方向性を議論しているときに、対立している意見になっている。ごみ箱の設置の有無について整理しておいた方がよい。

■委員

- ・場所によってごみ箱があった方がよいところもあるし、そうでないところもあるだろう。

■委員

- ・増やしたらどうなるか、減らしたらどうなるか、それぞれについて社会実験してみないとどちらがよいかはここで議論しても決められない。むしろ、そうした実験が必要だということではないか。

■委員

- ・ごみ箱がなくなったのは、ごみの分別収集が開始されたとき、家庭ごみを街なかのごみ箱に捨てる人が多く、それを防ぐ目的だったと聞いている。
- ・マナーについての意見も出ていたが、千代田区のように、マナーではなくルールとして明確にしていくべきではないか。

■原田コーディネーター

- ・皆さんの意見を伺うと、ごみ箱を増やすか減らすかは、どちらかだけでは決定できないので、その方向性を検討するという位置づけになるだろう。

(4) その他

－事務局より最終発表会について説明 了承

－第8回全体会議での発表者を選定

- ・Aグループ : 平田英二 氏
- ・Bグループ : 蒔田實 氏
- ・Cグループ : 沼田美穂 氏
- ・Dグループ : 関口陽一 氏

－この分科会全体での将来像の設定については、設定することで合意が得られた。

■委員

- ・将来像の設定については各グループの中から選出された発表者で検討していただくということかどうか。

■委員

- ・発表者間での検討を行う日までに、皆さんからご意見をいただくようにしたい。

－3月3日(月) 18:30～より、発表者による最終確認を実施する。

－分科会全体の将来像については3月3日に検討することとした。

以上